

(様式第4号)

第5回上田右岸地域協議会 会議概要

1 審議会名	上田右岸地域協議会
2 日時	令和5年8月28日 午後1時30分から3時まで
3 会場	中央公民館 第1会議室
4 出席者	上原委員、永本委員、小川委員、金井委員、小林正人委員、小林みゆき委員、駒崎委員、塩入委員、清水悟委員、清水万貴委員、竹内委員、田中委員、橋詰委員、増田委員、宮下委員、柳澤委員、渡辺委員
5 市側出席者	【事務局】星野中央地域振興政策幹、木嶋西部地域振興政策幹、横澤豊殿地域自治センター長、竹花地域内分権推進担当係長、近藤地域内分権推進担当主査、唐澤地域内分権推進担当主査、腰原地域内分権推進担当主査 【上下水道局】堀内局長、緑川経営管理課長、下林課長補佐兼庶務係長、百瀬経理担当係長、関上水道課長、小井土上水道政策幹、若林施設整備係長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者 0人 記者 0人	
8 会議概要作成年月日	令和5年8月29日

協議事項等

次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議事項

(1)『「上田・長野間における水道事業広域化の検討」に対する意見』の進捗状況について

上下水道局から資料を基に説明

以下、質疑応答

(委員)合併後、染屋浄水場の取水量は増えるのか。

(上下水道局)現状では増やすことはできない。将来の可能性として否定はしないが、今ある水源の中で賅っていく。

(上下水道局)真田地域の方に理解していただき、水源確保に協力いただいたことにより、現状の染屋浄水場の給水区域に送水することができ、余剰になる染屋浄水場の水により塩田などに送る量は確保でき、プラスとなる。

(委員)滝の入水源の使用は、いつ頃可能となるのか。

(上下水道局)早くても4-5年先というスケジュールになる。

(上下水道局)本来、市の単独事業として行わなければならないものが、広域化の事業とすることによって、3分の1の補助の対象となる。今すぐにできるものだが、広域化の方向性が決まるまで待っている状況である。

上下水道局から菅平滝の入水源について説明

以下、質疑応答

(委員)令和3年7月に関係3市長が知事への要望をしたとあるが、それが苦になっている。そこで一緒に行うという話が付いていれば、市民の声を聞くことや、我々が要望書を提出しても意味が無くなってしまふ。答えられる範囲で教えてほしい。

(上下水道局)水道事業は市町村の事務と法的には括られている。県営水道の設立の経緯は、当時、水が無い塩田から篠ノ井市、川中島町など 9 市町村が県に強い要望をして、県営水道として水道事業整備の要望をし、設立された経過がある。平成に入り、本来、市町村で事業を行うべきだという話が当時の知事から出て、平成 21 年から 26 年まで県営水道移管検討会を開催した。検討の中で坂城町の全域、千曲市はほとんどのエリアが県営水道であった。同時に坂城町では、自身で新たな浄水場を作るという話になり、水源の有無も含めた調査が始まった。費用も含めて 5 年間検討した結果、不可能だという結論になった。その結果、県企業局として長野県が責任を持って地域の水道事業を守っていく方針を打ち出した。これを受け、関係市町にて「県営水道移管検討会」で培った共通認識を今後に生かすため、新たに地域の水道事業のあり方を研究するための「水道事業運営研究会」を設立し、検討を重ねてきた。この検討の中で、令和 2 年度、この研究会で厚生労働省に相談をした結果、広域化によりこの地域が金額的にどの程度の効果が発生するか、国で業務を発注し試算してもらうことになった。この業務にて、地域全体が広域化により効果があることは示されたが、市町村ごとの試算ではないため、水道事業の広域化研究会を立ち上げることになった。これに先立ち、広域化を検討するにあたって、全面的な協力を知事をお願いしたものである。広域化を進める要望ではなく、あくまでも広域化を検討するための協力をお願いしたものである。

(委員)今後の人口減少に対応して、水道事業の持続的可能性を確保するための方策の 1 つとして検討がされている。平成 18 年新上田市発足以来の大事業で、市政の再構築に関わる大きな問題である。何よりも市民生活の維持、向上に欠くことのできない重大な課題なので、市民交流を経て進めていく事業と考えている。

(2)分科会に分かれて調査・研究

上田右岸地域の課題について

分科会ごとに分かれて意見交換

【第1分科会:教育・福祉・子育てについて】

調査研究テーマについて協議

子育て・子育て支援課から「上田市こどもまんなか応援サポーター宣言」について説明

(説明概要)国は 4 月に発足したこども家庭庁の取り組みの一つとして「こどもまんなか応援サポーター」を募集しており、上田市は令和 5 年 7 月 18 日に宣言を行った。SNS で「#(ハッシュタグ)」を付けて情報発信するだけで取り組みに参加できるもの。子育て支援で何かをやろうという動機づけになる。

以下、質疑応答

(委員)「#(ハッシュタグ)」をつける以外の参加方法はないか。

(子育て・子育て支援課)「#(ハッシュタグ)」を付けることで、国が取り組み内容の情報発信をしてくれる。

(委員)市民に宣言が浸透しているか。街中でも動きが見えない。

(子育て・子育て支援課)まだまだこれからの段階で商工会議所にも協力を打診している。県内でも上田市が初めて宣言した。

(委員)自分たちから「こどもまんなか応援サポーター」の輪を広げることが趣旨か。

(子育て・子育て支援課)SNSを使えない人も子育てを応援できる地域づくりとして、子育てしていない人でも参加の意義はある。

(委員)子育てサポーターや児童センターに呼びかけるのがよいのではないか。

(委員)子ども会議の動きはどうか。

(子育て・子育て支援課)下半期に子育て計画の策定の中で意見を聞く。

(委員)意見をどう吸い上げるかが問題である。市で盛り上げるならばもっと違う方法があるのではないか。子ども

自身が会議に参加する子ども会議はよい。当事者の意見は重要だ。

(委員)ただ「#(ハッシュタグ)」をつけて「席譲りました」という情報発信で終わりではいかがなものか。

(委員)「こどもまんなか応援サポーターをやってみた」の定義をしっかりとすべきではないか。

(子育て・子育て支援課)自分の子どもでなくても、子どもに関心を寄せて、よりよい地域にできればよい。

(事務局)昔と違い、今は他人の子どもに関心が薄い。情報発信をしなくても子どもに関心を持つ風潮は大事だ。

(委員)ゲートキーパーの研修に参加した。変化に気づくことが大切である。ゲートキーパーは広報がもっと必要だ。

(事務局)実際にゲートキーパーにならなくても存在を知っていることが大切だ。

(委員)市独自の推進体制はどうなっているのか。

(子育て・子育て支援課)市独自の取組はないが、国は「#(ハッシュタグ)」の取組をリツイートする。

(委員)県下で初めての宣言ならもっとやらなくてはいけないのではないか。

(委員)市独自にアンケートを実施してはどうか。

(委員)子育てイベントを一括発信してはどうか。

(委員)子育て支援に係る市のツイッターはあるか。

(子育て・子育て支援課)子育て支援専用のツイッターはない。

(委員)市長も先頭に立ってツイッターで発信すればよい。他市では市長も一生懸命に取り組んでいる。

【第2分科会：公共施設・事業について】

調査研究テーマについて協議

意見書作成のため各公共施設について意見集約

以下、委員からの主な意見

○体育施設について

- ・地域で使える体育館がほしい。
- ・ネーミングライツを取り入れてほしい。
- ・指定管理者を採用する場合は、直営の場合と比較するなど慎重に検討してほしい。
- ・可動式の席を設けて、アリーナの広さを有効に使ってほしい。
- ・総合体育館として、スポーツだけではなく、イベントもできる体育館にしてほしい。
- ・県大会ができる規模の体育館をつかってほしい。
- ・集客できる体育館を希望する。
- ・サブアリーナ、会議室、トレーニング室等を充実させてほしい。
- ・駐車場を充実させてほしい。
- ・避難所の機能を充実させてほしい。

○図書館について

- ・点字図書館等との複合施設を検討してほしい。
- ・駐車場のスペースを広くとってほしい。
- ・子どもの遊べる場所を併設してほしい。
- ・現在の場所から移設して建設する場合は、跡地の有効な利用方法を検討してほしい。
- ・飲食も可能なスペースを作ってほしい。
- ・フリーWi-Fiを完備してほしい。
- ・セルフでの貸出のシステムを導入してほしい。
- ・設計段階から市民やボランティアの方の意見を取り入れたものにしてほしい。

- ・司書資格を持った人の採用と待遇改善をしてほしい。

【第3分科会：建設・産業について】

調査研究テーマについて協議

公共交通機関の利用について、実際に使用するにはどうしたらよいか討論

以下、委員からの主な意見

- ・自家用車を使用しないメリットは、CO2 の排出削減、健康によい、事故が起きない。
- ・群馬県では中学三年生を対象とした研修がある。
- ・児童生徒に乗車体験をしてもらおう。
- ・停留所の位置は学校、施設、病院の前がよい。
- ・バス停、ルート、時刻表の周知は QR コードで読み取る方法がよいのではないか。
- ・通勤通学の本数の増便をすると昼間は減便になってしまうかもしれない。
- ・決済方法の多様化として、Suica が使えると便利である。
- ・上田市内の問題は、地域内交通をどうするか。補助金はないのか。ということ。
- ・路線バスの利用拡大が図れるように対策が必要ではないか。そもそも、行きたいところにどのバスが利用できるのかがわからない。乗り換え案内アプリでも路線バスは検索できない。バス停がどこにあるか、名前もわからない。バス路線は数十年前と変わっていないのではないか。市民生活に合わせた見直しが必要である。
- ・路線バスについては、乗り換え案内ができるアプリを開発し利便性を確保すべきではないか。

4 事務連絡

【次回】第6回

日時：9月25日(月)午後1時30分～

場所：西部公民館

5 閉会